６　大会山域の主な地名

１　蔵王山系

蔵王	ざおう
瀧山	りゅうざん
上の台	うわのだい
御神楽岩	おかぐらいわ
屏風岩	びょうぶいわ
地蔵岳	じぞうだけ※1
三宝荒神山	さんぽうこうじんさん
雁戸山	がんどさん
山形神室岳	やまがたかむろだけ
ドッコ沼	どっこぬま
三百坊	さんびゃくぼう
上宝沢	かみほうざわ
大釈山	たいしゃくさん
五郎岳	ごろうだけ
三郎岳	さぶろうだけ
片貝沼	かたかいぬま
祓川	はらいがわ
姥神	うばがみ
熊野岳	くまのだけ
二度川	にどがわ
連絡コース	れんらくこーす
樹氷原コース	じゅひょうげんこーす
観松平	かんしょうだいら
ワサ小屋跡	わさごやあと
刈田岳	かっただけ
五色岳	ごしきだけ
御釜	おかま
中丸山	なかまるやま
馬の背	うまのせ
名号峰	みょうごうほう
冷水山	ひやみずやま
紅葉峠	もみじとうげ
七曲登山道	しちまがりとざんどう

２　月山

月山	がっさん
弓張平	ゆみはりだいら
志津	しづ
姥沢	うばさわ
雄宝清水	おたからしみず
牛首下分岐	うしくびしたぶんき
牛首分岐	うしくびぶんき
鍛冶小屋跡	かじごやあと
神泉池	しんせんいけ
姥ヶ岳	うばがたけ
柴灯森	さいとうもり
金姥	かなうば
施薬避難小屋	せやくひなんごや
装束場	しょうぞくば
月光坂	がっこうざか
湯殿山	ゆどのさん
石跳川	いしぱねがわ
春木戸跡分岐	はるきどあとぶんき
元玄海	もとげんかい
玄海広場	げんかいひろば
志津野営場	しづやえいじょう※2

※１　地図等によっては「地蔵山（じぞうさん）」と表記してあるものもあるが，今大会では国土地理院発行２万5000分の１地形図に表記された「地蔵岳（じぞうだけ）」で統一する。

※２　今大会では，志津野営場入口にある駐車場を便宜的に「志津野営場駐車場」と呼ぶこととする。

7　コース案内

（１）－①　月山コース（Ａ２，Ｂ２※）

※Ｂ２は牛首分岐～山頂～志津野営場駐車場のみ

月山・弓張平オートキャンプ場からバスに乗車し，スタート地点となる姥沢駐車場に向かう。駐車場には常設のトイレがあるので，必要があればスタート時間に遅れないように利用しよう。駐車場からは事前に抽選した班ごと８チーム，３分間隔６回に分けてチーム行動のスタートとなる。駐車場を出て右に車道を緩やかに登ると，環境美化協力金を求めるプレハブ小屋がある。そこを通り過ぎて橋を渡り，鋭角に右折する。姥沢小屋跡を右手に見ながら登山道に入っていく（図 1)。

図１　姥沢小屋跡への入口

ブナ林をしばらく進むと，右側の視界が開けてトラバースのルートとなる。オタカラコウやリュウキンカなどが群生する道沿いには「雄宝清水」や「ブナのしずく」と名付けられた湧水があり，登山者によく利用されている。道は緩やかに登っていくが，木道も多く，濡れていると大変滑りやすいので注意しよう。しだいに樹木が低くなってきて，やがて森林限界に達すると目指す月山山頂が右前方に見えてくる。草原の中の木道の登山道をしばらく進むと牛首下分岐に出る。

図２　牛首下分岐

分岐を北方向に直進すると（図 2)，次第に傾斜がきつくなってくる。急な斜面を登り切って，傾

山形県立酒田東高等学校　教諭　近野　匡生

斜が緩くなると牛首分岐である（図 3)。ここは，A隊のチェックポイントにもなっている。B隊は，A 隊の最後尾がここを通過してからの進行となるので，通過の際に役員の指示に従ってほしい。

図３　牛首分岐

天気が良ければ，左手遠方に標高 2,236mの鳥海山が見え，緩やかに尾根を登っていくと道幅が狭いところが多くなり，傾斜も急になる。安山岩でできた岩場の登りを浮き石等に注意し，また一般登山者にも配慮しながらマナーを守って登ってほしい。また，途中の道幅が広いところで他チームを追い抜く際には，声をかけるなど十分気を配ろう。急傾斜の登山道が平坦になれば，小屋の基礎の石組み等が残る鍛冶小屋跡である。

図４　月山山頂の一角に到着

鍛冶小屋跡からさらにひと登りすると，進行方向左側の松尾芭蕉句碑を過ぎて平坦になり，右手に神泉池を望む月山山頂の一角に着く（図 4)。この先，月山神社の方に少し進んだ広場がチーム行

動のゴール地点となる（図 5）。山頂にはバイオトイレがあるが，有料（チップ制）なのでマナーを守って利用したい。山頂からの眺望は良く，360°遮るものがない。天気が良ければ北に鳥海山は勿論，岩手山や早池峰山まで見ることができる。南には朝日連峰や飯豊連峰，吾妻連峰，磐梯山等，東には蔵王連峰，西には庄内平野の先に日本海が望める。山頂付近には，東北ではまぼろしの花とも言われるミヤマクロユリが見られるが，花期が 6 月下旬から 7 月上旬であるため，大会時に見ることができないのは残念である。しかし，コバイケイソウの群落や花の百名山らしい多くの高山植物が出迎えてくれるだろう。

図 5　月山山頂（チーム行動ゴール付近）

ゴール地点を少し北に進み，頂上小屋を過ぎて正面の月山神社のすぐ手前を右折すると広場があるので，ここで大休止をとろう。天気が良く，時間が許せば山頂一帯を散策してもよい。月山山頂の一等三角点は，広場から少し北に進んで左の稜線に登ったところにある。わかりにくい道なので，役員の誘導に従おう。また，三角点はあまり広くないので長時間占有したりすることのないよう，また集合時間に遅れないように注意すること。なお，広場から北に伸びる階段を進むと月山神社の境内となり，参拝料が必要となる。

A隊は，B隊及び監督隊が山頂に到着した後，役員の指示に従って再びチーム行動のスタートとなる（B隊はA隊が出発した後に出発）。登ってきた急傾斜を下るが，月山ペアリフトの営業が始まるこの時間帯からは，急に一般登山者が多くなる。制限時間も気になるところだが，この区間は特に，前を行くチームの追い越しや一般登山者とのすれ違いは必ず道幅が広く安全な場所で行うよう，細心の注意を払ってほしい。また，落石や転倒にも気をつけなければならない。牛首分岐まで来たら，登ってきた左方向へは下らず，尾根伝いに姥ケ岳方面へ向かう（図 6）。このあたりも月山山頂同様に高山植物の宝庫であり，季節ごとの様々な花が目を楽しませてくれるはずだ。

図 6　牛首分岐

柴灯森のピークのわきを通り，しばらくすると金姥の分岐に出るので右に曲がり，トラバースの道を緩やかに下りながら進む（図 7）。

図 7　金姥の分岐

沢と尾根を縫うようにして下ると，やがて小沢の流れる平坦地に出る。湯殿山の姿を正面に，湿地帯や池塘を左右に見ながらさらに行くと施薬避難小屋が見え，装束場に着く（図 8）。

図 8　施薬避難小屋と湯殿山

装束場の名は，月山が天台宗であるのに対し，湯殿山が真言宗であることから，この場で衣装を着替えて行き来したことに由来する。また，施薬避難小屋とは，かつて食料の保存が効かずに腹痛を起こす行者が多かったことから，ここで薬湯を飲ませたことに由来すると伝えられている。装束場は，月光坂を経て湯殿山神社に行くルートと，今大会の大会コースとなる玄海広場へと続く石

跳川伝いの道との分岐点である。なお，施薬避難小屋の脇にはトイレがあるので利用できる。

装束場の分岐からササで覆われた道を南下すると，石跳川の源流部に出る。沢の両岸には見渡す限り見事なチシマザサの笹原が広がり，シーズンになると月山筍の恵みをもたらしてくれる。石跳川の上部では計 3 回の徒渉があり，最終的に左岸に渡る。川が増水して足場が水没していたり，岩と岩の間隔が広い場所，岩が濡れていて滑りやすい場所などがあるので，手袋をして，一歩一歩確実な足場を確保しながら，踏み外しや転倒にはくれぐれも注意して進もう（図 9）。

図 9　徒渉点（足場に注意）

3 回の徒渉を終え，小さな沢と木道をいくつか過ぎると，ブナ林からなる樹林帯に入る。登山道はいつの間にか石跳川から離れて南下する。石跳川と登山道が再び接近する辺りで，大木が横たわる春木戸跡分岐に着く。直進せずに右方向に下ろう（図 10）。

図 10　春木戸跡分岐

春木戸跡分岐を過ぎてすぐ，石跳川に架かる橋を渡って右岸に渡るとカワクルミ沼への分岐があるが，間違えずに左に進もう（図 11）。この辺りは石跳川の流れもだいぶ速くなっているので川への転落には十分に注意しよう。

図 11　カワクルミ沼への分岐

再び左岸に戻り，だんだんと平らな道となる。左手に急傾斜の崖が迫り，落石の危険のある箇所などもあるので，上部からの落石に注意しながら進む。途中，元玄海への分岐をまっすぐ進み，さらにアスファルトで舗装された道の分岐を左に進む。複数の記念碑が現れてきたら，チーム行動のゴール地点となる玄海広場である。ここには山形県高体連登山専門部で設置した安全登山の碑もあるので，表裏両面に刻まれている碑文をぜひ読んでほしい（図 12）。

図 12　安全登山の碑

ゴール後，役員の指示に従って駐車場まで移動する。玄海広場の正面には，山形県立自然博物園のネイチャーセンターがある。この建物を過ぎ，車道に入ってすぐ右手の登山道に入り，少し歩くと志津野営場駐車場が現れる（図 13）。大会当日には仮設トイレが設置されているので，バス乗車前に利用しよう。

図 13　志津野営場駐車場

（１）－②　月山コース（Ｂ２※）

※ Ｂ２の姥沢～姥ヶ岳～牛首分岐まで

月山・弓張平オートキャンプ場からバスで姥沢駐車場に向かう。姥沢駐車場で下車後は役員の指示に従い，事前に抽選したスタート順の暫定班ごとに月山ペアリフト下駅に移動する（図1)。姥沢駐車場と下駅および上駅にはトイレがあるが，数と時間が限られているため，幕営地で済ませておこう。下駅で，指定された順番に2人ずつリフトに乗車し，降車後，1分間隔2チームごとでチーム行動のスタートとなる。なお，リフトは足がつくほど地面に近い高さを進むので，高所が苦手な人でも安全に乗車できる。

図１　月山ペアリフト下駅

リフト乗車中は左前方に姥ヶ岳の美しい山肌が，振り返れば朝日連峰の雄大な山並みが眺められる。15分程の束の間の時間ではあるが，周囲の景色を楽しんでほしい。ただし，乗車中の落し物には十分注意しよう。

月山ペアリフト上駅をスタートして石組みの登山道を少し登ると牛首下への分岐が現れる（図2)。右には進まず，左への登山道を登っていくと少しずつ斜度が急になる。

図２　牛首下への分岐

やがて斜度が緩やかになると，木道が敷かれ広々とした姥ヶ岳山頂に到着する。360°ぐるりと周辺の山々を見渡すことができる（図 3)。

山形県立酒田東高等学校　教諭　近野　匡生

図３　姥ヶ岳から月山山頂を望む

姥ヶ岳の西側には，装束場の施薬避難小屋が眼下に小さく見え，それをはさんで湯殿山が大きくそびえる。庄内平野や鳥海山の先には日本海の海岸線も見え，正面には月山山頂が重厚に立ちはだかって登高意欲をそそる。木道から石組みの道を下ると，金姥の分岐に着く（図 4)。月山登頂後の下山コースでたどる装束場への分岐となるが，今回は直進しよう。この付近は高山植物の宝庫でもあるので，季節の花などが目を楽しませてくれるだろう。

図４　金姥の分岐（進行方向から逆向きに撮影）

柴灯森のピークのわきを通り，緩やかな歩きやすい道を進み，しばらくすると牛首分岐に出る（図 5)。役員の指示に従い，直進しよう。

図５　牛首分岐（進行方向から逆向きに撮影）

（ここから先は（１）－①の項を参照のこと）

（２）瀧山コース（Ａ３・Ｂ３）

山形県立米沢工業高等学校　教諭　金子　豊

幕営地の蔵王総合グラウンドから，A 隊・B 隊とも班ごとの８チームで３分間隔６回に分けてスタートする予定である。冬季にクロスカントリースキーのコースとなる幅の狭い舗装道路をしばらく歩く。カラマツ林の中，いくつかの分岐があるが，まっすぐ標高が高い方を目指して歩いて行くと，10 分ほどで蔵王温泉スキー場のゲレンデの中腹付近に飛び出す。左手には目指す瀧山の山頂や屏風岩が高くそびえ，正面にはスキーのジャンプ台や縦走路上の大釈山，右手には上の台ゲレンデなどいくつものコースやロッジ等が見える（図 1)。

図１　ゲレンデに出て左折して登る

左に折れて草の生い茂った斜面を登っていくと，ほどなくして登山道の入口を目にするが，ここでは登山道に入らずゲレンデの中につけられた急な砂利の車道をしばらく歩く。このあたりまでは道幅が広いので，前のチームを追い抜くことも可能である。

図２　ゲレンデ上部から登山道への入口

ゲレンデ上部で登山道に入り（図 2)，少し行くと急登が始まる。途中，御神楽岩や屏風岩への分岐があるのでそれに入り込まないように注意して高度を上げる。瀧山南面に突き出した岩頭や崩壊地のわきを通るところもあり，眺めは良いが転落には注意しよう。緩急を繰り返しながら広葉樹林帯をぐんぐん登ると，意外にあっけなく小さな祠と二等三角点のある瀧山山頂に着く。少し灌木も茂るが展望は素晴らしく，熊野岳，地蔵岳，三宝荒神山などの下に広がる蔵王温泉スキー場全体が大きく望まれる。北東方面には雁戸山や山形神室岳などの北蔵王の峰々が連なり，目を西に転じれば山形市の町並みの彼方に昨日歩いた月山や，屏風のように展開する朝日連峰が見える。雪が多い年は８月でも月山の東斜面に万年雪を観察することができる。

図３　瀧山山頂の齋藤茂吉歌碑

瀧山山頂から道は西蔵王の三百坊方面とドッコ沼方面へと分かれるので，確認を怠らないようにしよう。小さな祠の裏手の方に木製の齋藤茂吉歌碑があり，それが目印となってドッコ沼へ向かう縦走路に導かれる（図 3)。岩がちで滑りやすい急斜面の道で，何箇所かロープ場もあるので，手袋をしてスリップや転倒に注意しながら慎重に下ろう。この先にはいくつかの分岐がある。1 つ目は西蔵王の三百坊から登ってくる前滝コースとの分岐で，この道は急峻な岩場のコースで，瀧山が歴史ある修験道の山であり山麓に多くの坊舎があったことを物語る古来からのルートである。下りの利用は危険なので禁止されており，ここにはロープが張られている。

図 4　前滝コースとの分岐

この分岐を右に折れ（図 4），さらに下ると，左へ蔵王ダム方面の上宝沢に下る分岐，右へ蔵王温泉（上の台ゲレンデ方面）に下る分岐が次々と出てくるので，指導標を確認しながら進もう。スキー場方面へ下る道は最短で蔵王温泉へと下れるので，緊急時のエスケープルートとしての利用価値は高い（図 5）。やがて穏やかな樹林帯の道となり，ニホンカモシカなどの動物に出くわすこともある。

図 5　蔵王温泉へ下る分岐

ほとんど展望のない単調な道を，いくつかのアップダウンを越えてぐんぐん進む。静かなブナ林を過ぎ，いつの間にか大釈山を越え，笹原の中に少し展望が開けるようになると，蔵王温泉スキー場の中腹に位置するダイヤモンドバレーゲレンデは近い。ゲレンデに出たら右手の緩やかな巻き道のコースを歩き（図 6），蔵王スカイケーブル中央高原駅や蔵王大権現の祀られている祠の前に至る。

図 6　ダイヤモンドバレーゲレンデに出る

ここからドッコ沼までは車道を歩く。車道は 2 列になっているが，右側の上段の道を行くとドッコ沼（図 7）のほとりに出る。ブナ林に囲まれたドッコ沼にはイワナが泳ぎ，新緑や紅葉の時期には散策客でにぎわう風光明媚な観光スポットである。時折車も通るので注意しよう。このドッコ沼でチーム行動は終了となる。

図 7　ドッコ沼

ドッコ沼で隊が集結後，講話や昼食，班別交流会の時間をもつ予定である。付近には蔵王スカイケーブルの駅舎があり，トイレの利用ができる。また，簡易トイレも設置する予定である。班別交流会のあと，班長の指示のもとに班行動でスタートする。ドッコ沼からしばらくは車道を進み，三五郎小屋という瀟洒な営業山小屋の前を通過し，中央ゲレンデのいくつかのコースをまたいで行く（図 8）。冬には，ブナの中にアオモリトドマツが点在する樹林帯のスキーコースに上質のパウダースノーが降り積もり，スキーヤーにとても人気がある一帯である。

図 8　三五郎小屋と登山コース

車道をまたいで少し登ると左手（北側）に五郎岳，右手（南側）に三郎岳の対峙する鞍部に至り，直進する。あたりはブナにアオモリトドマツが混じる混交林で，蔵王らしい風景が展開する。うつぼ沼，目玉沼など点在する湖沼群を見ながら整備された散策路を進むと，ほどなくして大きな片貝沼のほとりに出てパラダイスゲレンデに至る。正面（東）の間近に，ピラミッドのような雄大な三宝荒神山の姿を眺めることができる（図 9）。

図 9　片貝沼と三宝荒神山

この場所はパラダイス十字路とも呼ばれ，いくつものスキーコースを連結するハブのような役目を果たす場所になっている。ここからしばらく車道を歩き，途中に明日歩く連絡コースとの分岐があるがそのまま通過し（図 10），少し先から再び登山道に入る。登山道の入口を見落とさないようにしよう（図 11）。ここからの下山道は，明日逆コースで登ってくる祓川登山道の一部である。この付近は近くに硫化水素ガスを発生させる場所があり，注意を促す看板が立っている。

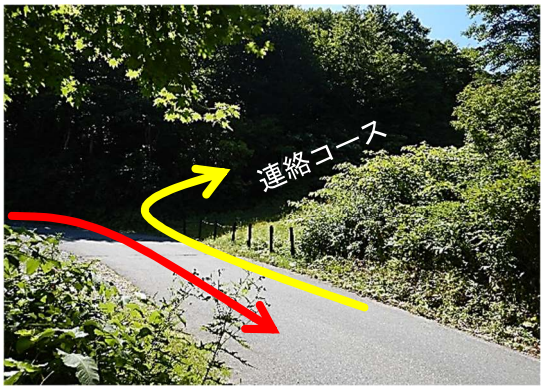


図 10　車道と連絡コースの分岐

赤色線が瀧山コースのルート

黄色線が熊野岳コースのルート

もし硫化水素臭（硫黄臭）が急に強くなるようなことがあったら，速やかにその場を離れなければならない。

図 11　車道から祓川登山道への入口

赤色線が瀧山コースのルート

黄色線が熊野岳コースのルート

コースは急斜面を短く下ると，湧水がほとばしり流れる姥神の前を通過し，祓川の幅の広い砂防堰堤上を徒渉する。ふだんは水の流れが少ないが，雨が降ると増水することもあり，滑りやすいので注意してほしい。このあとは静かなブナ林の中の道を下る。少し登り返しもあるがおおむね下りで，途中，水神碑を左手に見る頃には植生がブナからナラ主体の雑木林に変わる。そして，稜線から右に折れ，温泉の流れる二度川に架かる橋を渡ると中森ゲレンデに飛び出し，少し下ると蔵王中央ロープウェイ温泉駅に到着する。ここで班行動は終了し，各隊の全チームが集結後，隊行動で温泉街を抜け幕営地の蔵王総合グラウンドまで戻る。

（３）　熊野岳コース（Ａ４・Ｂ４）

山形県立山形工業高等学校　教諭　神尾　博之

幕営地の蔵王総合グラウンドからチーム行動でスタートする。前日の瀧山コースと同じく，A 隊・B 隊の順に班ごとの 8 チームで 3 分間隔 6 回に分けてのスタート予定である。途中入り組んだ温泉街の中を歩くが，交差点には補助員が立っているので迷うことはない。しばらく行くと蔵王中央ロープウェイ温泉駅に到着し，そのままゲレンデを登って温泉施設の小屋がある地点から祓川コースの登山道に入る（図 1)。

図 1　祓川登山道入口

少し行くと指導標のある分岐点に着き，ここで温泉の流れる二度川を橋で渡って尾根に乗り上げる（図 2)。よく踏まれた程よい傾斜の道を高度を上げていくと，植生はナラなどの雑木林からブナ林に変わっていく。

図 2　二度川を渡る橋

登山道のかたわらには水神が祀られ，大木も見られる美しいブナ林となる。付近はツキノワグマも生息する自然度の高い森であり，少人数で歩く時はクマ除けの鈴を鳴らすなどして接近遭遇を避ける対策もしたい。高度をじりじりと上げ，やがて道はいくつかの小尾根を越えてトラバース気味に少し下る。小沢をいくつかまたいで再び登ると，最後に大きな砂防堰堤のあるところで祓川を徒渉する（図 3)。

図 3　祓川の堰堤を徒渉する

この広い沢は伏流となりふだんはほとんど水の流れはないが，雨後は増水することも考えられるので状況によっては注意が必要となる。さらに行くと姥神が祀られ，すぐ上部の斜面から水があふれ出している水辺に着く。姥神を過ぎて急斜面を登れば，すぐにドッコ沼方面に行く車道に出る。

車道の向かい側には再び登山道への入口があるが，大会では登山道に入らず左（北東）へ折れ，しばらく車道を歩く。前のチームを追い越すような時はここで可能だが，時折車が通るので注意して追い越そう。連絡コースというスキー場のゲレンデと車道が交差しているところから，右折して連絡コースに入り，その後左折して再び登山道に入る（図 4)。この付近には簡易トイレを設置する予定である。

図 4　連絡コースと登山道入口

一部，階段状の大岩が並んだ急斜面があるので，滑らないように注意しよう。ここから上部は植生が一変し，アオモリトドマツを中心とした針葉樹林となる。蔵王の象徴たる樹氷を作る樹林帯であり，特有の甘い香りが漂う。蔵王ロープウェイの下を通り，樹氷原コースというゲレンデを横切って子安明神などいくつかの石像や石碑を見送りながら高度を上げる。観松平への分岐（図 5）を直進するとだんだん灌木帯となり，右手（南側）の視界が開ける。大きな蔵王沢を隔てて蔵王の主峰である熊野岳の稜線が望める。道は階段状に整備されているが，やや傾斜がきつく苦しいところだろう。

図 5　観松平への分岐

やがて傾斜が緩んでくると，地蔵岳のガレた南斜面を巻くようになる。いつしか灌木帯は火山性の岩礫とハイマツ・草原帯となり，高山植物も豊富に見られるようになる。2 か所ほど崩壊地をトラバースする部分があるので，上からの落石や滑落には注意しながら進もう。天気が良ければ熊野岳がどんどん近づいてきて気持ちの高まるところだ。地蔵岳山頂からの道を合わせると，ワサ小屋跡に到着する（図 6）。

図 6　ワサ小屋跡と熊野岳

ワサ小屋とは昔，おワサさんという老婆が切り盛りする小屋があったことからその名がついたとされるが，そこにたたずむおワサさんの山姥像は怖い顔をして登山者を見つめているようである。チーム行動はここで終了となる。

この先は監督を含めたパーティ行動となる。広々とした登山道の稜線漫歩であり，遠くには北蔵王の盟主雁戸山も見える。蔵王連峰の雄大な眺めを味わいながら歩いてほしい。熊野岳まで道はしっかり整備されているが，目印になるものが少ないので，ガスにまかれた時などは足元の登山道を見失わないよう，方向を確認しながら歩く。また，途中に近道とペンキで書かれた分岐を目にするが，安山岩質の岩場に付けられたペンキの目印を頼りにしながら，避難小屋を経由せずに熊野岳山頂に直接登る道である。大きな岩場の道で，怪我や道迷いの危険性があるため，大会ではこの道は使用しない。季節の高山植物を見ながら登りつめると山頂の一角に到着し，目の前には石造りの頑丈な熊野岳避難小屋が見えてくる。また，前方には刈田岳や五色岳が姿を現す。左（東側）に進むとエメラルドグリーンの火口湖である御釜も見えてくるので，しばし展望を楽しもう。しかし，あたりはコマクサの生育地なので，むやみに砂礫地に立ち入るのは慎むべきである。

このあとコースは十字路を西に進み，熊野岳山頂に到着する。ここには二等三角点のほか，石垣に囲まれた熊野神社や齋藤茂吉の歌碑などがある。火山砕屑岩なども点在し，昼食をとるには最適の場所である。ただし，登山道が地蔵岳方面，中丸山方面，先ほどの避難小屋の先に続く北蔵王縦走路などへと四通しているので，下山時の方向確認は決して怠ってはならない。大会コースは馬の背方面への登山道に入り，緩やかに下る。平らになったところが馬の背十字路で，広々とした稜線に大きな標柱の目印が立てられている。このあたりまで来ると，リフトや有料道路で刈田岳まで上がってくる観光客とすれ違うようになるが，五色岳や御釜が眺められ，振り返れば熊野岳も大きく聳えて，展望は素晴らしい。ここまで来ればあとは刈田峠駐車場まで下るだけであるが，時間に余裕があれば

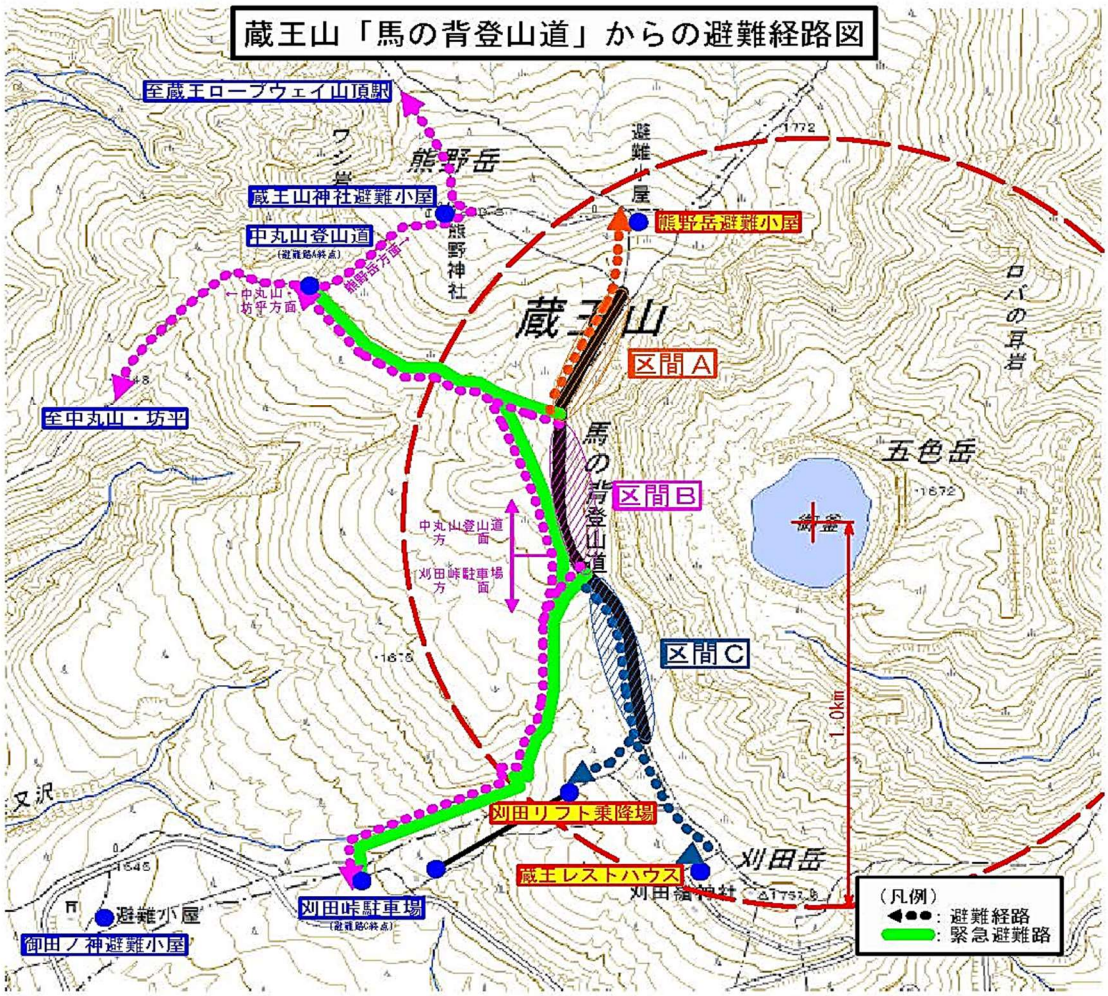
下る前に刈田岳のピークに登り，御釜や熊野岳をバックに記念写真を撮るのもいいだろう。ここは，蔵王のシンボル「御釜」撮影のベストポイントなので，晴れていれば思い出に残る写真が撮れるに違いない。

最後の下りはリフト脇につけられた道を行く。高山植物も多い道だが滑りやすい。最後の最後にけがなどしないよう慎重に下り，刈田峠駐車場で解散式の後バスに乗る。

なお，熊野岳周辺の馬の背カルデラは，火山の噴火警戒区域である。馬の背登山道には緊急時の避難路が設置され，周辺施設にはヘルメットやマスクなどの備蓄もされている。この付近を通行する際は火山活動地帯であることを決して忘れず，緊急時のことも想定しながら緊張感を持って行動してほしい。避難経路については下図を参照されたい。

登山客・観光客の皆様へ

「馬の背登山道」を通行中に警報の発表、又は火山活動に異変がある場合は、誘導看板に従い下記避難経路図のとおり避難してください。



（注意事項）

1　馬の背登山道上の位置別避難経路

・区間Ａ：馬の背登山道を北上し「熊野岳避難小屋」に避難する。

・区間Ｂ：緊急避難路を使用し誘導看板に従い「中丸山登山道方面」又は「刈田峠駐車場方面」に向かい、御釜から１ｋｍ以上離れる。

①中丸山登山道方面…中丸山登山道を使用し「中丸山･坊平方面」又は「蔵王山神社避難小屋」を経由して「蔵王ロープウェイ山頂駅方面」に避難する。

②刈田峠駐車場方面…「刈田峠駐車場」に避難する。

・区間Ｃ：馬の背登山道を南下し「蔵王レストハウス」又は「刈田リフト乗降場」に避難する。

2　馬の背登山道では、できるだけ立ち止まらずに、速やかに通行して下さい。

3　通常は緊急避難路に立ち入らないで下さい。

蔵王山火山防災協議会
宮城県危機対策課　022-211-2375
山形県危機管理課　023-630-2231

（３）′　熊野岳（代替）コース（Ａ４・Ｂ４）

※ 火山規制よって熊野岳まで行けない場合（ワサ小屋跡までは（３）に同じ）

ワサ小屋跡でチーム行動を終了したあとは，監督と合流してパーティ行動となる。火山規制時は残念ながら熊野岳山頂に立ち入ることができないので，ワサ小屋跡の鞍部から熊野岳とは反対側の地蔵岳を経由して蔵王温泉を目指す（図 1)。北へ方向を変え少し登ると分岐があるが，右の巻き道ではなく地蔵岳山頂へ向かう。

図 1　ワサ小屋跡と熊野岳

山頂は広く，展望は素晴らしい。そのまま直進して下ると地蔵尊のある蔵王ロープウェイ山頂駅前の広場に着く。地蔵尊の背後には小高い丘のような三宝荒神山のピークが見える。ロープウェイ山頂駅の前から右手のザンゲ坂というスキーコースに入る。コースの急な斜面をそのまましばらく下ると，右手に登山道の入口がある。初めの入口はほどなくして再びスキーコースに戻るので，この部分はスキーコースをそのまま下ってもよい。二つ目の入口を見逃さないようにして，そこから登山道を下る（図 2)。

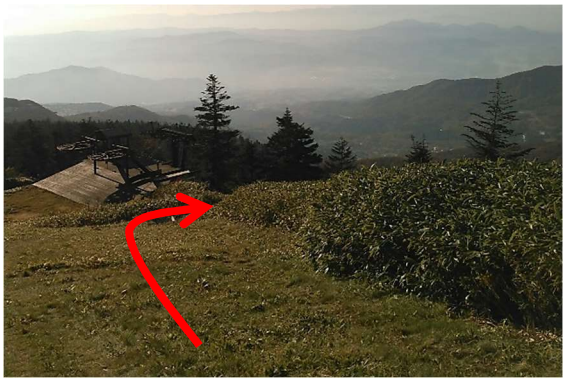


図 2　ザンゲ坂からパラダイスゲレンデへの入口

滑りやすい急斜面の道がしばらく続くが，やがてなだらかになってくると，昨日の瀧山コースで通過したパラダイス十字路に着く。トイレがあるので利用してよい。リフト乗り場の左側に登山道の入口があるのでそこを進む。昨日の瀧山コースでたどった道とは違ったルートなので注意しよう。

このあたりは中央高原のスキーコースと散策路が入り乱れわかりにくいところもあるので，指導標と大会地図を注意深く確認しながら進もう。紅葉峠の分岐にある指導標に導かれ，樹林の中をドッコ沼まで下る。ドッコ沼から車道をそのまま進むと，蔵王スカイケーブル中央高原駅に着く。このわきから高鳥コースというスキーコースに入り，約 400m ほど下ると七曲登山道という登山コースの入り口が右手に現れる（図 3)。指導標はないので初めは不安に思うかもしれないが，少し行って左手の沢筋あたりを注意深く観察すると左側に登山道が確認できる。

図 3　七曲登山道の入口

（高鳥コースから右に入り，鞍部付近を左折）

この七曲登山道も祓川登山道と同様に古くからの道で，現在これを利用する人はあまりいないが，道はしっかりしている。しばらく下ると小沢を渡り，上の台ゲレンデの上部に飛び出す。あとは広々としたゲレンデの中をスーパースライダーの遊具を横目に見ながら踏み跡を探して下るだけだ。前方右手には昨日たどった瀧山から大釈山への稜線が大きく仰ぎ見られる。ゲレンデのいちばん麓の蔵王スカイケーブル上の台駅付近が，隊の結集地点となる。ここで解散式を行い，徒歩で各宿舎に向かう。

８　各隊の行動予定表

（１）Ａ隊（団体男子）行動予定表

チーム行動及び班行動時の時刻は先頭の予定時刻を表すものとする。

時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1日目 7月30日 開会式								開会式	登山隊編成	審査	コース隊編成	蔵王体育館バス出発	月山・弓張平オートキャンプ場バス到着	設営 引継式	炊事			就寝
時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
2日目 7月31日 月山コース	起床	引継式	姥沢駐車場バス到着 月山・弓張平オートキャンプ場バス出発	姥沢駐車場出発	牛首分岐	月山山頂到着	月山山頂出発 （休憩等）	牛首分岐	装束場 金姥	玄海広場到着	志津野営場駐車場到着	志津野営場駐車場バス出発	蔵王総合グラウンドバス到着	設営 引継式	炊事			就寝
				チーム行動														
時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
3日目 8月1日 瀧山コース		起床	引継式	蔵王総合グラウンド出発	瀧山山頂	大釈山 ドッコ沼到着	（講話・休憩等）	ドッコ沼出発	片貝沼 パラダイス十字路	蔵王中央ロープウェイ温泉駅到着	蔵王総合グラウンド到着	引継式 設営	（入浴等）	炊事				就寝
				チーム行動				班行動			隊行動							
時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
4日目 8月2日 熊野岳コース		起床	引継式	蔵王総合グラウンド出発 蔵王中央ロープウェイ温泉駅		連絡コース 樹氷原コース	ワサ小屋跡	熊野岳避難小屋 熊野岳神社	馬の背		刈田峠駐車場到着 解散式	刈田峠駐車場バス出発 蔵王体育館バス到着	各宿舎到着					
				チーム行動				パーティ行動										
時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
4日目 8月2日 熊野岳コース（代替案）		起床	引継式	蔵王総合グラウンド出発 蔵王中央ロープウェイ温泉駅		連絡コース 樹氷原コース	ワサ小屋跡	地蔵岳	パラダイス十字路	ドッコ沼	七曲登山道	蔵王スカイケーブル上の台駅 解散式	各宿舎到着					
				チーム行動				パーティ行動										

（２）Ｂ隊（団体女子）行動予定表

チーム行動及び班行動時の時刻は先頭の予定時刻を表すものとする。

時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1日目 7月30日 開会式								開会式	登山隊編成	審査	コース隊編成	蔵王体育館バス出発	月山・弓張平オートキャンプ場バス到着	設営 引継式	炊事			就寝
時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
2日目 7月31日 月山コース	起床	引継式	月山・弓張平オートキャンプ場バス出発	姥沢駐車場バス到着・徒歩移動	月山ペアリフト下駅乗車 月山ペアリフト上駅下車・出発	姥ヶ岳・金姥 牛首分岐	月山山頂到着 （休憩等）	月山山頂出発	金姥 牛首分岐	装束場	志津野営場駐車場到着 玄海広場到着	志津野営場駐車場バス出発	蔵王総合グラウンドバス到着	設営 引継式	炊事			就寝
					チーム行動													
時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
3日目 8月1日 瀧山コース		起床	引継式		蔵王総合グラウンド出発	瀧山山頂	ドッコ沼到着 大釈山	（講話・休憩等）	片貝沼 ドッコ沼出発	パラダイス十字路	蔵王中央ロープウェイ温泉駅	蔵王総合グラウンド到着	引継式 設営	（入浴等）	炊事			就寝
					チーム行動				班行動		隊行動							
時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
4日目 8月2日 熊野岳コース		起床	引継式	蔵王総合グラウンド出発 蔵王中央ロープウェイ温泉駅		樹氷原コース 連絡コース	ワサ小屋跡	熊野岳避難小屋	熊野岳神社	馬の背	刈田峠駐車場到着	解散式 刈田峠駐車場バス出発	蔵王体育館バス到着	各宿舎到着				
				チーム行動				パーティ行動										
時刻	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
熊野岳コース（代替案） 4日目 8月2日		起床	引継式	蔵王総合グラウンド出発 蔵王中央ロープウェイ温泉駅		樹氷原コース 連絡コース	ワサ小屋跡	地蔵岳	パラダイス十字路	ドッコ沼	七曲登山道	解散式 蔵王スカイケーブル上の台駅	各宿舎到着					
				チーム行動				パーティ行動										